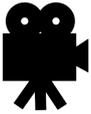


目の不自由な方々と共に映画鑑賞を楽しむことのできる環境づくりをしています。

シティ・ライツ代表 平塚千穂子



### ごあいさつ

秋は私の一番好きな季節です。月のきれいな夜には、よく「コンビニに買い物にいく」と、出かけるついでによくサイクリングをします。サイクリングといってもママチャリで、近所の道をぐるぐるぐるぐる、わざと遠回りしながら走るだけなのですが、この季節は、鈴虫の声と少し肌寒いくらいの風がとても心地よいのです。サイクリングをしながらいろいろなことを考えます。そんな時、悩みが少し晴れたり。いいアイデアが浮かんだりします。

さて、今年はトヨタ財団の助成金獲得！という幸運にめぐまれて、音声ガイド付上映を全国各地に広げるべく、地方のボランティアグループとの交流や、配給会社へのアプローチを積極的に進めています。

まず、6月に函館、仙台、新潟、埼玉、東京、静岡、京都、福岡の音声ガイド制作グループ代表、日本点字図書館、日本ライトハウスの方々にお集まりいただき、バリアフリー上映の普及に向けて、各団体の作った音声ガイドを、皆で共有化できないか、音声ガイドをきちんと録音してアーカイブ化できないか、などいろいろなことを話し合い、全国バリアフリー上映ネットワーク(ABCネットワーク)を作りました。

まずは、それぞれの団体がどの作品の音声ガイドを作っていて、どんな状態で保管してあるのかを把握するため、ネットワークの皆様へ、これまで制作した音声ガイドのタイトル、保存状態をすべて書き出してくださいました。台本に手書きの原稿で残している団体もあれば、データでもワード、エクセルなどフォーマットもまちまちでしたが、かなりの数の音声ガイドが作られているということがわかりました。驚くなかれ、その数は100タイトルにおよびます。しかし、もったいないことに、そのほとんどが1回の上映会で発表された後は、使われることのないまま眠ってしまっていたのです。それはあまりにもったいないですね。

では、どうしたらボランティアグループの作った音声ガイドや、これからつくる音声ガイドの利用機会を広げることができるのか？その方法についても、いろいろ考えました。1つは、音声ガイドをつくったグループが、配給会社に音声ガイドを差し出して、理解してもらうこと。そして、その後の上映にも使っていただけるように、うまく話をもっていくこと。もう1つは、音声ガイドを点字図書館などの施設に納めて、利用者の個人鑑賞にまで活用を広げていただくこと。さしあたって今、できることは、この2つではないかなと思います。

映画は劇場公開が終わると、公共ホールなどの非劇場上映へと場所を移していきますが、その段階で配給会社が変わるということも多いです。バリアフリー上映のニーズは、上映会、市民映画祭などで、近年高まってきているように思いますから、私たちから積極的にイベントの宣伝協力を申し出て、上映会主催者にバリアフリー上映をすすめる。それが一番、近道なのではないかなと思います。

昨年、映画祭に向けて制作した「ミルコのひかり」の音声ガイドは、まさにこのようなステップを踏むことができたので、DVDにも音声ガイドを入れていただき、非劇場の上映でも、私たちABCネットワークがバリアフリー上映の宣伝と、サポートをさせてもらえることになりました。他にも、国立のボランティアグループが制作した「筆子、その愛」、仙台メディアテークのボランティアが制作した「夕凧の街 桜の国」、先日岩波ホールで上映した「火垂るの墓」も、音声ガイド対応作品として、配給会社に許認可をいただいて、一緒に全国のバリアフリー上映普及のお手伝いをさせていただけることになりました。

相手が大きな会社であればあるほど、バリアフリー化への取り組みについて、とても慎重になりますから、一

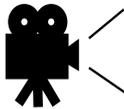
筋縄ではいかないかもしれませんが、臆せずトライしていきたいものです。そして、上映機会を全国各地(特に、まだバリアフリー上映をやったことのない地域)に広げることができればと思っています。

また、今まで団体間で音声ガイドの制作着手情報の連絡をとっていなかったために、上映会で人気の高い「フラガール」や「子ぎつねヘレン」などは、複数のグループが、各地でそれぞれに音声ガイドをつくっていて、4、5バージョン存在していたというのもわかりました。これについては、当事者やライブラリー事業を考えている施設の方々からは、重複制作はしないで、できるだけたくさんの音声ガイドを作っていってほしいとの声があげられましたが、音声ガイドの制作グループからは、「地方色があって、いろいろなバージョンがあっても良いのではないか。」「いい映画はやはり、自分たちでも音声ガイドを作りたい。先に他のグループが音声ガイドを作っていたら、もう作れない、作ってはいけない。という禁止条項は設けないでほしい。」との意見があがりました。結局、音声ガイド自体がまだこれからの分野だということもあり、現時点であれこれ禁止事項を設けるのでは、この分野の活動自体が萎縮してしまうのではないかと話合ひもあって、今は、「できるだけ重複しないように、着手情報を交換しあいましょう。」という所に落ち着きましたが、こうして、横の連絡をとりながら、音声ガイドの共有化を進めています。また、8月には各団体にFM送信機を配布し、再生同期オペレーションの講習会も行いました。10月、11月にかけては、録音・編集の講習会も行っています。

こうして、ABCネットワークでは、少しずつですが、皆さんが今まで積み上げてきた経験・知識、そして何よりもその成果物である音声ガイドを全国各地に広げ、伝えていく方法を考えています。

DVD音声解説CD貸出事業も、今年、全国の点字図書館でスタートできるよう準備を進めているそうですが、映画の音声ガイドが、いつか録音図書並にたくさん作られていき、みんなが好みの映画を選んで鑑賞できる。そんな夢のような未来が、実はもう、すぐそこに近づいている。そんな手ごたえを感じずにはいられない今日この頃です。

## ～同行鑑賞作品～



### 活動報告

このコーナーでは、7月～9月までに開催された音声ガイド付き上映会や、同行鑑賞会をレポートします。参加された皆さん、企画者そしてボランティアの方々お疲れ様でした。

- ・ 7月6日/インディ・ジョーンズ クリスタル・スカルの王国/川崎チネチッタ
- ・ 7月20日/歩いて歩いても/新宿武蔵野館
- ・ 7月21日/西の魔女が死んだ/恵比寿ガーデンシネマ
- ・ 7月27日/ゲゲゲの鬼太郎 千年呪い歌/新宿ジョイシネマ
- ・ 8月3日/靖国-YASUKUNI-/シネマ・ジャック&ベティ
- ・ 8月16日/休暇/シネマ・ジャック&ベティ
- ・ 8月31日/881 歌え! パパイヤ/ユーロスペース
- ・ 9月6日/火垂るの墓/岩波ホール
- ・ 9月7日/ランジェ公爵夫人/シネマ・ジャック&ベティ
- ・ 9月14日/20世紀少年 第一章/ユナイテッドシネマ としまえん
- ・ 9月15日/グーグーだって猫である/ユナイテッドシネマ としまえん
- ・ 9月20日/崖の上のポニョ/川崎チネチッタ
- ・ 9月27日/大決戦! 超ウルトラ8兄弟/川崎チネチッタ
- ・ 9月28日/幸せの1ページ/川崎チネチッタ





# 特集

## 立教大学・シティライツ共催イベント

毎年、立教大学ボランティアセンターでは、一人一人が一步を踏み出すための「知る」「感じる」「考える」きっかけとして、学生から一般の方までを対象に、映画会を開いていますが、今年は、その映画会をバリアフリーにしようというご提案をいただき、シティ・ライツも共催という形で、参加させていただきました。せっかくやるのだから、学生たちにも音声ガイドをつくることから関わってもらおうというわけで、5月から学生達とシティ・ライツのコラボレーションで音声ガイド勉強会がはじまりました。

大学には障害者をサポートするサークルやグループがたくさんあります。みんなの得意分野で関わってもらって、上映会を誰もが楽しめるバリアフリーなものにしよう！といろいろなグループに協力していただき、7月5日の上映会当日、映画には、「音声ガイド」「日本語吹替」「日本語字幕」を、トークセッションには、「PC文字通訳」「手話通訳」もつけました。車いすや視覚障害者の来場サポートにも、たくさんの学生ボランティアが参加し、みんなの力を結集した素晴らしいバリアフリー上映会となりました。

今回は、この上映会開催の火付け役となった武藤さんと、音声ガイド勉強会に参加して下さった学生ボランティアの加藤さん、シティ・ライツから社会人ボランティアとして参加して下さった、大竹さんからご投稿をいただきました！

### ◆立教大学ボランティアセンターと共催の音声ガイドつき映画上映会開催の経緯

武藤 歌織

今年は、立教大学のボランティアセンター（以下、RVC）とシティ・ライツ共催の映画上映会が実現しました。学生とシティ・ライツ有志が勉強会で2か月かけて完成させた映画『ツオツィ』の音声ガイド。上映会では、勉強会参加者がライブリレーでナレーションしました。

私は開催に至った経緯をかいつまんでご紹介します。

立教大学には、ボランティアセンターが学長直轄の部署として置かれています。センターの仕事には、ボランティア活動の企画・運営、講習会・セミナー、情報提供や相談業務などがあります。

その中で、視覚障害のある人への支援活動を知りたいと、スタッフの方が訪れた先が、私が係わっているNPOの監事と理事。その際、日本点字図書館で行っているホームシアター鑑賞会のあることを知り、立教大学で音声ガイド付きの上映会は企画できないだろうか？ という相談が、上記のNPOに寄せられ、私につながったのです。

平塚リーダーと二人で、RVCの山内（やまのうち）道子さん、淵 博子さんをお尋ねしたのが2月。ちなみに、こちらは会う前から引き受けたいモード全開でした。

予算、人手など、どの部分を分担できるか？ を話し合い、7月5日開催を目標に、プロジェクトがスタートしました。

お話は、教職員過程を取っている学生は、ボランティアを一定時間行うことが単位取得に必要なさそうで、たいていは夏休みのキャンプでボランティアリーダーをするらしいのですが、音声ガイドづくりもそのボランティアの単位にしたいということでした。

ガイド勉強会の進行、学生との協働、視覚障害のある人への上映会案内、当日の手伝い（シティ・ライツメンバーが慣れていて、とても助かりました）をシティ・ライツが受け持ち、映画上映の許諾処理、上映会運営・企画、勉強会の際の教室提供や配布物印刷などをRVCが行いました。

勉強会、上映会については、大活躍した大竹さんがレポートしてくださるので、お譲りします。

ボランティアセンターのスタッフは3人で、上映会以外にも様々なボランティアの斡旋や相談をして大忙しのところ、バリアフリー上映会の名の下、車いすの人や耳の不自由な人にも参加してもらいたいと、準備を進めておられました。

さて、当日。上映会に限っても進行の改善点、ポリウームの調整対応ができなかった、茶話会を十分機能させられな

かった、字幕を聴覚障害の人向けのものにできなかったなどなど、反省点も多々ありますが、見込み以上の来場者を迎え、まずは、盛況のうちに開催できたことを喜びたいと思います。

2つの勉強会の同時進行にも拘らず、シティ・ライツの有志が勉強会に参加してくれたことで議論も活発になりました(学生たちと年齢の近い坂さんが、ビシバシ刺激してくれました)。めーたんと大輔さんが丁寧にモニターをしてくれ、上映前のボランティア講習会には、うきちゃんも参加してくれてありがたかったです。

誘導は初めてという学生も多く、打ち上げまで残ってくれた大ちゃんから学んだことが多かったとスタッフに話した学生もいたそうです。また、上映後、シティ・ライツの活動に参加している学生さんもいます。とても嬉しい!!

当日見に来てくださったり、一緒に開催してくださったりと、みなさん、この場をお借りして、御礼申し上げます。

なお現在、作った音声ガイドのナレーションを録音して、全国の上映会でもリクエストがあれば、音声ガイドをお貸しできるようにしたいと計画をしています。

#### ◆立教大学・シティ・ライツ共同イベント『ツオツィ』音声ガイド制作に参加して

加藤 沙知

私が立教大学での企画に参加させていただいたのは、友人のこんな一言からです。

「“音声ガイド”っていう活動があるんだって!!!」

友人から、こう伝えられた私の頭に浮かんだのは、「音声ガイド…って?」という疑問でした。

それから、音声ガイドについて調べ、視覚障害をお持ちの方と映画を楽しむ試みだと知り、今回のイベントに参加することとなりました。

私は、「情報を伝えること」を専門的に勉強する学校に通っています。そのため、ガイド作りに関する最初のガイダンスでは、「コツは、今まで勉強してきたことと同じだな」と思いながら聞いていました。恥ずかしながら、その時までには「すぐに出来るだろう」と思っていたのです。

しかし、実際に映像に合わせてガイドを作ってみると、全くと言っていいほどガイドが作れませんでした。(当然ですよ。笑)

画面に映るとどんな状況を伝え、また、どんな音をガイド無しで聞かせるべきなのかが、分からなかったのです。1分ほどの場面に對し、「私だったらどんな情報を知りたいのか?」「聞こえる音から、どんな場面を想像するだろうか?」と、その何十倍の時間をかけた事を思い出します。

このように試行錯誤を繰り返す中で、私は、自分も体験してみたら、何かつかめるかもしれないと思い立ちました。そこで、渋谷のスクランブル交差点へ行き、目をつぶって横断してみたのです。その時耳に入ったのは、信号待ちをしているバスがエンジンをかける音です。「アイドリングストップを解除して、エンジンをかけたということは…もうすぐ信号が変わる!!!」私は、瞬時にそう考え、足を速めました。いつもは気づかないそんな音を耳にすることで、「この感覚だ」と感じました。目をつぶったことで、いつもと違う音の世界を体感したように思います。

この体験をしてから、映画の中で“状況判断に役立つ音”をガイドでつぶさないようにと、私なりに工夫してみることにしました。

まだまだ勉強途中で、音を聞かせようとするあまりに、ガイドが不足がちになることもありました。しかし、皆さんが作成したガイドやアドバイスを参考にし、言葉の使い方の勉強もさせていただきました。

そうして出来上がったガイドをつけて「ツオツィ」を上映する日は、朝から緊張しました。ガイド読みを担当させていただいたからです。いよいよ上映開始。自分の読むガイドに、一心に耳を傾けてくださる方々の背中を見ながらガイドを読めた事は、「場面を伝えよう」という良い緊張感につながりました。また、上映後に、つたないガイド読みにも関わらず、皆さんが暖かく声をかけてくださったことは、とても嬉しかったです。そして、そのときの言葉が、またやってみようという気持ちにつながっています。

最後になりましたが、音声ガイド初心者の私が「ツオツィ」の企画に最後まで参加できたことは、皆さんのアドバイスと、励ましのおかげです。ありがとうございました。

皆様こんにちは、大竹と申します。数ヶ月前から、ライブガイド、字幕朗読等で参加させて頂いており、皆様のお陰でとても充実した日々を過ごしています。今回は、7月に立教大学で行われたバリアフリー上映会の感想を書かせて頂きたいと思います。

作品は「ツオツィ」という、南アフリカの貧困を扱った社会派の映画でした。そしてこの作品が私にとって初めての「作りこみ」の音声ガイドでした。「作りこみ」というのは、ライブガイドのように数回映画を見てからガイドを作るのではなく、10人以上が1ヶ月以上かけて作りあげるといったものです。

それまでライブガイドしかした事がない私にはとても新鮮な体験で、自分が考えた稚拙な言葉とは違う、皆さんの素晴らしい表現に毎回感嘆しながらガイドを作成していました。(笑)

表現というのはこんなにもあるんだなあと改めて日本語の美しさに酔いしれ、出来れば、今以上に心ある言葉を使っていける男でありたいなあと思いました。ついでにこれを活かして素敵なラブレターをかける男の子にもなりたいなあとも思いました。(笑)

当日はガイドを読ませて頂いたのですが、人に伝えるという気持ち、優しさがどれだけ生きる事に必要かを、改めて感じ、読みながら胸を震わしていたのを今でもはっきりと覚えています。

作りこみを経験したら、ライブガイドはやりたくなるというお話をお伺いしましたが、僕は、「この経験をライブガイドに活かせる事が出来たら!？」と思うとワクワクする思いです。(笑)

最後に余談なのですが、私はシティ・ライツ以外にも、ホームレスや知的障害などの支援ボランティアを行っているのですが、最近若い人たちのボランティアが多く見られるようになりました。(今回のイベントでも、私以外に感想を書かれた加藤さんを含め20人位の学生さんがいらっしゃいました)

昨今マスメディアが、世界の天災や人道問題、日本においても偽装、殺人事件など悲しい話題を多く取り扱っています。社会やマスメディア等の改革が必要なのはもちろんですが、ただずっと下降しているのではない。その同じ世界で沢山の若い方たちが世の中を暖かくしようと動いている事も皆さんにも知って欲しいと感じています。優しい心をもった若い人が増え、世の中を支えてくれると思うと心が温くなる想いですね。そしてそんな輪を広げる為にも、僕が出来る事を丁寧にやっていきたいと思っています。そんな事を改めて感じさせてくれた今回のイベントに心から感謝しています。



### 『ツオツィ』

監督 ギャヴィン・フット 出演 プレスリー・チュウェン、テリー・フェト、ケネス・スコースイ、モツィ・マツハーノ

(あらすじ)

自分の本名と過去を封印し、幼い頃からたった1人、社会の底辺で生きてきたツオツィ。仲間とつるんで、富裕階級の間から暴力で金を奪うのだ。ある日、高級住宅地を歩いていたツオツィは、黒人女性が運転するベンツを見かけ、女性を脅し車を盗んで逃走。しかし、後部席に赤ん坊がいることに気が付く。紙袋に赤ん坊を入れ、途方に暮れている時、女手ひとつで子供を育てているミアムと出会う。ツオツィは、彼女に赤ん坊を預け…。

“ツオツィ”とは、不良を意味する言葉。南アフリカの社会派作家、アソル・フガードの同名の小説が原作。アパルトヘイトは過去のものとなり、民主的な国家が誕生したものの、長年来続いた政治がもたらした負の遺産がすぐに消滅するはずもなく、今も貧困と差別に苦しむ人々が多い。ツオツィを演じたプレスリー・チュエニヤハエも、南アフリカの治安の悪い

地域で育ち、息子の行く末を案じた母の勧めで演劇を始めたという経緯を持つ俳優だ。共演は、テリー・ペート、ミュージシャンのZOLAら、いずれも南アフリカで生まれ育った俳優たちである。監督のギャヴィン・フットは、南アでの活動が世界的に評価され、次回作はハリウッドで製作予定。

(シネマトウデイ)



## 特集

「アルビン/歌うシマリス3兄弟」

音声ガイド付き試写会を終えて まつだたかこ



毎年8月にGTFトーキョーシネマショーというイベントがあります。近日公開作を配給会社が持ち寄って、試写会を開くのですが、音声ガイドの取組みは2006年から始まりました。今年は20世紀フォックス映画さんが配給する「アルビン/歌うシマリス3兄弟」という作品1本に付きました。

私が音声ガイド原稿を書きまして、永田尚子さんというナレーターさんに読んでもらいました。

ハリウッドエンターテイメントで、子供向けの作品に音声ガイドが付くのは初めてのことで、ひそやかに、とっても画期的なことでした。20世紀フォックス映画さんは初めてながら、熱心な対応でした。

そんな中、この作品のガイド原稿を書く上で、大きく悩んだ点がありました。

主役のシマリス3兄弟はCGアニメーションで描かれ、他は実写という作品だったのですが、3兄弟の顔つきはアニメーションだったものの、細かい動きや毛並みなどはリアリティを感じさせる仕上がりで、実写の人物との絡みも違和感がありませんでした。物語はこのシマリス3兄弟の歌が大ヒットして、スターになるのですが、最後にはプロデューサーと決別するというような流れ。一旦作品が終わったかに見えて、エピローグが付いていて、プロデューサー役の男性がシマリス3兄弟の代わりとなるスターを育てようとして、実写のリスを3匹連れて来て、歌を歌わせようと必死の姿が映って幕切れ！となりました。そのエピローグの音声ガイドを考える段になって、はたと手が止まりました。私は「本物のリス」とガイドしかけたのですが、それだと、劇中の3兄弟は本物じゃなかったの？ということになります。いや、CGなので本物じゃないんですが、設定上は本物なわけですから。

で、20世紀フォックス映画さんと相談して「喋れないリス」と入れました。

なんとなく不十分な感じもしましたが……。

こういう視覚的な遊びはなかなか思案のしどころです。製作者の意図を壊さない形がベストですので、シマリスがCGであることは事前解説に入れただけで、劇中では単なる「喋れる」シマリス達として扱い、ラストの実写のリスさん達は「喋れない」という対比表現にとどめました。(劇中のデイブのセリフにネズミのことを「喋れないげっ歯類」と表現するのを拝借)

そして、思いました。あとは、鑑賞後にお友達なり、シティ・ライツメンバーなりに直接説明してもらえばいいじゃないか！と。それこそが、コミュニケーション。目の不自由なお友達と晴眼のお友達が一緒に鑑賞する醍醐味ではないか！と。

試写会後のお食事会ではもちろんあれやらこれやらの解説話で盛り上がりました。本当は眼の不自由なお子さん

に沢山来ていただいたかったのですが、親子連れは1組のみでした。でも、お子さんはまた行きたい！とお母さんに言ったそうです。音声ガイドの原稿作りは時に孤独な作業ですが、観終わった後に皆と直接にコミュニケーションが取れるので、とっても贅沢だと改めて感じました。来年の8月もお楽しみに！

### 『アルビン/歌うシマリス3兄弟』

監督 ティム・ヒル

解説: 歌って踊る3匹のシマリス、アルビン、サイモン、セオドアが活躍するファミリー・ムービー。間違っただけで都会にやって来たシマリス3兄弟と、彼らが出会った売れない作曲家の心温まる交流を描く。作曲家のデブを『Mr.インクレディブル』のジェイソン・リーが演じ、『ダイ・ハード4.0』のジャスティン・ロングらがシマリスの声を担当している。実写とCGIを組み合わせた、楽しい映像世界と愛くるしいシマリスたちに注目。

(シネマトゥデイ)

## 勝手におすすめシネマ Vol.7 『アカルイミライ』

本年度のカンヌ国際映画祭「ある視点」部門で審査員賞を受賞した『トウキョウソナタ』の公開がはじまりました！ということで、今回は『トウキョウソナタ』の監督、黒沢清氏の過去の作品をご紹介します。

『アカルイミライ』(2002年)

監督: 黒沢清 出演: オダギリジョー、浅野忠信、藤竜也、他

キレやすい青年・仁村(オダギリジョー)は、バイト先が同じ年上の有田(浅野忠信)を慕っている。有田は仁村の感情をコントロールするためのサインを使い出す。“行け”と“待て”のサイン。“行け”のサインを出して、有田は消えた。

“行け”とサインを出されても……、その先にあるのは「明るい未来」なんだろうか？

『アカルイミライ』とカタカナで書かれたこのタイトルに含まれる意味を考えてみよう。

「明るい未来」などとはよくいうけれど、それはあくまで希望的観測に過ぎず、未来のことなど誰にもわからないはず。未来とは、その瞬間、その瞬間に何を選択するかによって、いくらでも変わり得る未知の世界なのです。

若者達にとっての未来はどうだろう？

決して明るいとは言えない社会の中で、言葉では表せないどうしようもできない感情と葛藤しながら、不器用にしか生きていけない若者が増えています。未知の世界は深い霧の中に沈み、「明るい未来」は忘れ去られる……。

でも未来は、明るくないかもしれないけれど、生きている限り続くのです。

「明るい未来」ではなく「アカルイミライ」としか言いえないけれど、前進するしかない！

『アカルイミライ』、現実を突き付けつつ、ささやかなエールを送ってくれている、そんな映画のような気がしませんか？

(大田 悠子)





## 思い出の映画

— 思い出は、名画とともにいつまでも —。

このコーナーでは“思い出の映画”にまつわる投稿エッセイをご紹介していきたいと思ひます。皆さんの汗と涙の人生をセピア色に彩る素敵な名画の数々をエピソードとともにお寄せ下さい！！

「思い出の映画」

<テッチャン>

私の思い出の映画は、シベールの日曜日です。見たのはもう40年前にもなります。

でも、この映画を思い出す度に私はすすやかな気分させられるのです。

記憶喪失になった空軍パイロット・ピエールは、ひよんなことから薄幸の少女と出会い、日曜日ごとに湖を散歩し、語り合います。それは、一幅の美しいメルヘンです。ピエールは、その世界の中で憩うのです。

一方、彼は看護婦と一緒に暮らし、その友だちたちの善意に支えられていますが、自分の居場所を見つけられないのです。少女は、ピエールに言うのです。教会の屋根の風見鶏を取ってくれたら自分の名前を教えて上げると。

全く他愛もないことです。クリスマスの晩に、少女は、シベールと言う自分の名前を書いた小箱をピエールに渡します。

ピエールは彼女に約束した風見鶏を、ナイフで切り取るのです。ナイフと風見鶏を持ったピエールは、理不尽にも、警官に射殺されてしまいます。

ピエールを探しに来た看護婦や、その友だちたちの号泣と、シベールの絶叫が、いつまでも深く心に突き刺さっています。

この映画は、インドシナ戦争をバックにした一つの悲劇として捉えることも出来ますが私は、この映画に愛の原点を見るのです。ピエールにたいする大人たちの善意は、博愛ですが、記憶喪失のピエールの無意識のそのまた下の意識には届かないのです。

ピエールの心の奥の奥を揺さぶるのは、シベールの天衣無縫な純真さと愛です。

ピエールの死は、決して無駄に終わりはありません。

シベールが大人になった時に、自分の永遠の恋人は、ピエールだったと、気づくことでしょう。その美しいポエムも、一生彼女の中で生き続けるに違いありません。

映画は素晴らしい、乾杯です!!



～O・T・H・E・R(ちょっと得するインフォ)～

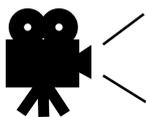
「シベールの日曜日」 ～「レオン」のモデルとなった(?)40年前の名作～

モノクロ映像が水墨画のように美しいこの作品で、リリズム溢れる演技を披露したパトリス・ゴッジ(1950年生まれ)は、当時13歳でした。クリクリした大きな瞳が印象的なゴッジは、10代で5本の映画に出演します。残念ながら、ゴッジはその後、ほとんど映画界で活躍することはありませんでした。しかし今なおこの作品は、ヌーベルバーグの傑作として世界中の人々に愛されています。女優業を引退したゴッジは、25年ほど前ノートルダム寺院の近くにある土産物店で働いていたそうです。現在、58歳のゴッジ。あの無邪気で美しい笑顔は、きっと変わらないことでしょう。

### 作品紹介

戦争で記憶をなくしたピエールは、小さな田舎町で看護婦の女性と暮らしていた。当ても無く森をさまよう日々を送る彼の前に、父親に捨てられた少女が現れる。孤独なふたりは、日曜ごとに湖畔で会うようになるが、周囲の大人たちは彼を変質者扱いして、ふたりを引き離そうとする…。

(芳賀 昌美)



## お知らせ

### ○新規会員のご紹介

(2008年7月15日～2008年9月15日までにご入会いただいた方々です。)

[正会員] ・大島 佐恵(東京都台東区在住) ・青木 愛(東京都江東区在住) ・長田 香(東京都多摩市在住)  
・千綾 陽子(大分県大分市在住) ・塩谷 隆(東京都世田谷区在住) ・星 治男(東京都豊島区在住)  
・坂本利津子(東京都北区在住)

### ■音声ガイド付き上映会のお知らせ

東京都調布市で行われる音声ガイド付き上映会のお知らせです。

11月18日(火曜日)、植木等が日本中を笑わせた「日本一の～男」シリーズの第1弾。『日本一の色男』を、音声ガイド付きで上映します。故・植木等の痛快・爆笑喜劇を、是非大きなホールでお楽しみ下さい。

(毎回、平日ともあって、視覚障害者の来場者が非常に少ないシネサロン。せっかく市の行政が機会をつくってくれているバリアフリー上映会なので、もうちょっと、視覚障害者の来場数が増えないかなと思っています。

鑑賞料も無料です。もしご都合のあう方がいらしたら、是非おこしください。)

## 調布シネサロン

上映作品:「日本一の色男」1963年 東宝映画(93分) 監督:古沢憲吾

[作品介绍] 厳肅なる女学校の卒業式でツイストを踊り出した音楽教師の光等、即刻クビの宣言となったのはもちろんだ。学校を飛び出た光等はローズ化粧品セールスマンにもぐりこみ、言葉巧みなセールストークと破天荒ながら計算高い手法で、女性たちをだまし、トップセールスマンとして巨額の金額を稼ぎ出すのだった。女性たちはそれぞれ自分こそが光等の恋人だと思って追いかけるが・・・。



### [キャスト]

(ローズ化粧品セールスマン:光等)植木 等  
(ローズ化粧品セールスマン:丸子)団 令子  
(芸者:雪桜)草笛 光子  
(バーのマダム:春子)白川 由美  
(チャームスクールの生徒:ナナミ)浜 美枝  
(校長:道江)淡路 恵子 ほか

日時:11月18日(火曜日)

場所:調布市グリーンホール(京王線調布駅南口からすぐ。)

上映開始:10時30分～と、13時30分～の2回。(音声ガイド付き)

開場時間:各回30分前

鑑賞料:無料

主催:調布市文化・コミュニティ振興財団

協力:シティ・ライツ

※音声ガイドをお聞きになる方は、FMラジオをご持参ください。

周波数FM88.5MHzで音声ガイドをお聞きになれます。(当日受付にてラジオの貸出もあります。)

※どのくらいの方に来ていただけるのか心配なので、いらっしゃる方は、シティ・ライツ事務局までご一報いただけるとうれいす。調布駅からの誘導をご希望の方も、駅からご案内いたしますので、ご連絡ください。

## 大塚シネマ

東京都豊島区大塚では、財団法人としま未来文化財団と、地域のボランティアにより結成されたシネマプロジェクト実行委員会、そして、地元商店会が主催となって、年に3回、南大塚ホールで上映会を行っています。ですが、これまで、一般向けの上映会で、音声ガイドはついていませんでした。

ところが、としま未来文化財団の施設の一つ、勤労福祉会館の所長さんが、「この上映会に音声ガイドをつけてみませんか？」と声をかけてくださったのです。それで、南大塚地域文化創造館と地域の皆様のご協力をいただいて、音声ガイド付き上映を、はじめて実現することになりました。せっかくですから、大塚で音声ガイド勉強会も開催させていただき、地域の方々にも、みんなが楽しめるバリアフリー上映の素晴らしさを、音声ガイドをつくることから体験していただきたいと思っています。みんなで作った音声ガイドは、12月の上映会で、ラジオで聴くことができます。こちら、喜劇映画です。映画を観ながら、みんなと一緒に笑う！こんなに気持ちのいいことはありません。是非、皆様ご来場下さい。

上映作品:「歓喜の歌」 2007年 配給シネカノン(112分) 監督:松岡錠司

[作品介绍]人気落語家、立川志の輔の同名落語を、『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』の松岡錠司監督が映画化したヒューマンドラマ。大晦日の市民ホールを舞台に、紛らわしい名前のママさんコーラスグループをダブルブッキングしてしまったことから起こる騒動を描く。

“事なかれ主義”の主人公に実力派の小林薫が扮するほか、本作が6年ぶりの映画出演となる安田成美、“日本の歌唱”の第一人者、由紀さおりらが出演。きっとあなたの心にあかりを灯す、笑いと涙の音楽喜劇！



### [キャスト]

(文化会館の主任:飯塚) 小林薫  
(文化会館の新米職員:加藤)伊藤淳史  
(ママさんコーラスのリーダー:五十嵐)安田成美  
(ママさんコーラスのリーダー:松尾)由紀さおり  
(飯塚の妻:さえ子) 浅田美代子 ほか

日時:12月13日(土曜日)

場所:南大塚ホール (山手線大塚駅南口から徒歩5分。)

上映開始:13時~の回(音声ガイド付き。)

★由紀さおりさん、立川志の輔さんの、ご来場の皆様に向けたビデオレターを上映予定!!

鑑賞料: 800円 ペア券1500円

主催:大塚シネマプロジェクト実行委員 財団法人としま未来文化財団

※音声ガイドをお聞きになる方は、FMラジオをご持参ください。

周波数FM88.5MHzで音声ガイドをお聞きになれます。(当日受付にてラジオの貸出もあります。)

※駅から誘導が必要な方は、必ずシティ・ライツ事務局まで、お申し込み下さい。【お申し込み締め切り12月8日】

## ■ 第12回 音声ガイド勉強会 参加者募集

台詞の合間や場面転換などの短い時間制限の中で、画像情報から何を選びとり、どのような言葉で表現するか？を  
考える音声ガイドづくりは、私たちに映画の見方と言葉のコミュニケーションを学ぶ機会を与えてくれます。

この勉強会では、12月13日に上映を予定している「歓喜の歌」を課題にして、音声ガイドを分担で作成し、皆さんと映  
像を見ながら音声ガイドが画面に的確かどうか考えていきます。複数の人と映画をじっくりと見ることで、映画の新た  
な見方がわかり、自分が「見ているようで、見ていなかったこと」に気づくことができます。また、言葉から受け取る情報  
を互いに確かめあうことで、「言葉の美しさ・大切さ」を学ぶことができます。

映画がお好きな方、アナウンスやナレーション等に興味のある方も、是非この機会に、音声ガイドづくりという新しい  
世界に、一歩踏み出してみませんか？

＋会 場：南大塚地域文化創造館（JR山手線 大塚駅南口より徒歩5分／地下鉄丸の内線新大塚駅 徒歩約8分）

＋進行役：シティ・ライツ代表 平塚千穂子

＋参加費：無料

＋参加条件：自宅でビデオまたはDVDを見ることのできる方。エクセルの使用が可能な方。

※午前のみ/午後のみ参加可という方は事前にお知らせください。分担を考慮します。

※音声ガイドづくりは全く初めてという方も大歓迎です。

### 【スケジュール】

10月17日（金）：初回ガイダンス 13:00～15:00（ガイドづくりの基礎と進行の説明・教材配布）

※はじめて参加の方のみ。必ずご出席ください。

（日程があわない場合は個別対応いたしますので、ご相談ください。）

10月24日（金）

～11月21日（金）毎週金曜 10:00～15:00

：検討会（分担で作ってきた音声ガイドを各自発表し、みんなで映像をみながら検討します。）

12月13日（土）：音声ガイド付き上映会（南大塚ホール 13時～）

（上映にあわせて完成した音声ガイドナレーションをラジオでお聴きいただきます。）

◎お申し込みはシティ・ライツ事務局まで。（ホームページからもお申し込みできます。）

定員で締め切らせていただきますので、お早めにお申し込みください。



### 編集後記

（会報編集課 ノンちゃん）

今年の夏はとて激しい天気の日が多かったですね。夜中に雷の音で目を覚ましすつ  
かり寝不足になってしまったり、ちょうど帰宅時間に大雨に降られて思わず立ち往生した  
り…。そんな異常気象のためかいなかは分かりませんが、我が家のネット環境が一時期

普通となってしまう。ある日の夜、いつもと同じようにメールチェックをしようとする  
と、ネット接続ができなくなっていたのです。その時点では「明日の朝になれば繋がる  
ってこともあるか」などのんきにしていたのですが、次の日になっても一向に開通の気配  
はなく、知り合いのパソコンに詳しい方に電話してみたり、プロバイダのサポート窓口に  
電話してみたりするも駄目。いよいよよしかたがないので数日後に休暇を取って、再  
度調整する段取りまで済ませたところで…。なぜだか全く意味が分かりませんがネット  
接続に成功！本当に今回のことではいかに私がネットのお世話になっていたかを思い知  
らされました。と同時に人間が機械に振り回されているという気にもなって悔しかっ  
たのですが、音声化ソフトさえあればネット上でいろんなことが調べられる喜び・楽  
しさ・ありがたさをかみ締めつつこれからも機械（パソコン）と仲良くお付き合いして  
行こうと思います。

ちなみに申請してしまった休暇は有意義に使うということで、「ラストゲーム最後の早慶戦」を観ながら涙をぼろぼろ流していたことも付け加えておきます。

**(会報編集課 芳賀)**

先日、銀座のみゆき座で映画を観ました。ここで映画を観るのは初めて。初めての映画館を利用するときは、座席は広いか、トイレはキレイか、膝掛けの貸し出しはあるか、などなど自分なりのチェックポイントがあります。

芳賀チェックに合格すると、次回また利用する事になります。

しかしみゆき座にたどり着いた時、全てのチェック項目を忘れてしまいました。なぜならばそこには、宝塚のファン軍団が一糸乱れぬ隊列を組み、出待ちしていたからです。平日の夜なのに数百人!? そう! みゆき座と宝塚劇場は、隣接していたのです。

すっかりビビった私がヨボヨボ近付いて行くと、一斉に鋭い視線が…。(ま、気のせいでしょうが)しかも全員無言。静か。あー、怖かった。映画を観る前にスッカリ疲れてしまいました。心身ともに元気があれば、またこちらの映画館を利用することも、あるかもしれません。

**(会報編集課 大田)**

“ゲリラ豪雨”と名付けられた異常気象に大騒ぎした夏も終わり、虫の音が爽やかな夜風とともに沁みる秋がやってまいりました。秋といえば……、秋刀魚! 秋刀魚といえば……、『秋刀魚の味』!!

『秋刀魚の味』というタイトルなのに、鰻を食べるシーンはあっても秋刀魚を食べるシーンはない。でも、私は秋刀魚を食べながら『秋刀魚の味』に思いを馳せずにはいられないんです。生涯セルフメイクし続けたといっても過言ではない小津安二郎監督の遺作に、乾杯!!

**(会報編集課 石神)**

先日ディズニー映画「魔法にかけられて」を見ました! んも〜っ…かなり良かった!!! 実家に帰り母と姉を連れもう一度見たほどです! ディズニー映画の胸わくわくする部分、うっとりする部分、はらはらする部分、そして最後はにっこりする部分、ぜんぶ凝縮させてある一本です! 個人的にリスのピップの可愛い仕草には胸キュン、動悸、息切れでした。夢見ること、あきらめないことの素晴らしさを感じさせてくれたこの映画。私もあきらめず、しごとく、就活頑張ります!

**(会報編集課 吉川)**

いつもはスルーしてしまうのですが、今年はパラリンピックをよく見ました。車椅子テニスや車椅子バスケットは非常に迫力があって大変見ごたえがありました。体を張ったプレーや肉体の限界に挑戦する人々の姿には本当に感動させられます。

先日終わったのですが、メダル数はアテネのころに比べて激減してしまっただけです。参加国が多くなり競争相手が増えたことや、国からの支援が不足していることが原因に挙げられています。まあこれはパラリンピック=障害者スポーツという状態から、本格的なプロスポーツになった、ということなのでしょう。前進と見るべきだと思います。

一番印象的だったのはイラクの選手たち。オリンピックには4人の参加だったのですが、パラリンピックには20人参加しています。多くの方がイラク戦争で障害を負われた元兵士たちだとのこと。

理不尽な戦争に巻き込まれ、体に障害を負われた人たちが、前向きに生きることを捨てずに挑戦する姿にジーンと着ました。

お忙しい中、今回の会報作成に協力いただいた方々には、大変感謝しております。ありがとうございました。

皆さまの投稿を、心よりお待ちしております。宛先は、kaihou@citylights01.org。次回の発行は1月10日。投稿される方は、12月第2土曜日までをお願いします。『会報のデータ送信』にも対応します。ご希望の方は、会報編集担当アドレス<kaihou@citylights01.org>まで、氏名と会報の送信を希望するメールアドレスを記入して、お申し込みください。

2008年 秋号 2008年10月10日発行

編集: 吉川俊平、斉藤恵子、芳賀昌美、大田悠子、石神愛子

発行者: バリアフリー映画鑑賞推進団体 シティ・ライツ

事務局: 〒114-0016 東京都北区上中里 1-35-15 TEL&FAX 03-3917-1995

E-mail mail@citylights01.org URL http://www.citylights01.org

